



データで知る 事業に活かす
【第3章 山口県経済の課題】

第3章 山口県経済の課題：（1）SWOT分析

SWOT分析

※ 自社の内部環境と外部環境を「Strength（強み）」「Weakness（弱み）」「Opportunity（機会）」「Threat（脅威）」の4つの要素で要因分析し、企業や組織、プロジェクトの戦略策定や意思決定を支援するためのツール。

- SWOT分析に基づき、県経済の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理する

		プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み (S)	<ul style="list-style-type: none">①化学等の製造業が強みを有し、県外から稼ぐ力が強い (45ページ)②医薬品・医療機器関連企業の集積 (105ページ)③山海の美しい自然環境や多彩で美味しい食材など、観光ポテンシャルの高さ (105ページ)④事業所の開設・維持や生活に係るコストの低さなど、経済活動を展開する上での都市部と比較した優位性⑤全国屈指の道路の整備状況、6つの重要港湾等を有す港湾の優位性 (106ページ)⑥災害リスクの少なさ (106ページ)⑦高等専門学校3校は全国2位 (107ページ)⑧地域と学校の連携度 (107ページ)	<ul style="list-style-type: none">①人口減少、少子高齢化が全国を上回るペースで進展 (36ページ)②産業部門及び工業プロセス部門の温室効果ガス排出割合が全国平均の約2倍 (109ページ)③ホワイトカラー雇用の受け皿不足 (108ページ)④情報通信業や学術研究、専門・技術サービス業の従事者が少ない人財ポートフォリオ (108ページ)⑤都道府県魅力度ランキング42位 (35ページ)⑥大規模商業施設やアミューズメント施設の少なさ⑦開業率の低さ、廃業率の高さにみられる停滞感 (109ページ)⑧山口県の強みの認識力や発信力の弱さ⑨食料自給率の低さ
	機会 (O)	<ul style="list-style-type: none">①DX・GX、生成AI等の技術革新の進展によって新たなビジネスモデルや市場機会が創出②成長が期待されるアジアにおける需要の取り込み③インバウンドの拡大④水素・医療関連の市場拡大⑤近接する大都市との経済活動や人財の活発な交流⑥ミレニアル世代・Z世代の地元で働きたい傾向⑦リスキリング、リカレント等の法整備や運用環境改善	<ul style="list-style-type: none">①人口減少・労働力不足の拡大②カーボンニュートラルに対する法整備や消費者意識の高まり③県内事業者の対応力を超えた技術革新の進展④製造業の県外や海外への機能集約・移転⑤インフラや社会保障制度の維持が困難⑥ジェンダーギャップに対する意識の高まり
外部環境			脅威 (T)

医薬品・医療機器関連企業の集積

- 医薬品や医療機器関連企業の集積が進み、世界的に高齢化が進展する中で今後大きな成長の可能性を有す医療関連産業分野で大きなポテンシャルを保有
- 山口県は企業、大学、医療機関等が連携した「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会」を設立し、情報交換等の場の創出、企業間や産学公連携による新たな研究開発や内発展開の促進、企業誘致の推進等を展開

主な医薬品・医療機器製造業

市町	企業名
岩国市	帝人ファーマ(株)
光市	武田薬品工業(株)
山口市	テルモ山口(株)
宇部市	UBE(株)
	セントラル硝子(株)
	富士レビオ(株)
山陽小野田市	協和キリン(株)
	田辺三菱製薬工場(株)
	日産化学(株)
	日本化薬(株)

(資料) 山口県産業労働部企業立地推進課「山口県企業立地ガイド」

観光ポテンシャルの高さ

- 山海の美しい自然環境、海の幸・山の幸など、多彩で美味しい食材、豊富な歴史（防長三白他）など、高い観光ポテンシャルを有す

山口県の観光資源

歴史	江戸時代の長州藩が「米」「紙」「塩」の「防長三白」を振興（後に「蠟」が加わって「四白」）、松下村塾で知られる萩市、室町時代に大内文化の栄えた山口市など、歴史ロマンにあふれる魅力的な地
自然環境	秋吉台・秋芳洞、長門峡、別府弁天池、関門海峡など
食材	岩国れんこん、美東ごぼう等の農産品、フグ、アンコウ等の水産品など

(資料) 山口県ホームページほか

全国屈指の道路の整備状況、6つの重要港湾等を有す港湾の優位性

- 山口県の道路舗装率（2021年4月1日現在）は、94.2%と全国5位で、国土交通省が実施した「道路利用者満足度調査」で全国総合1位になるなど、全国屈指の道路整備状況を誇る
- 山口県の港湾は、2港が「国際拠点港湾」、4港が「重要港湾」に指定され、重要港湾以上の港湾の総数は、北海道に次ぐ全国2位
- 3つの国際定期フェリー航路が就航し、東アジアへの地理的優位性をもつ

山口県の港湾

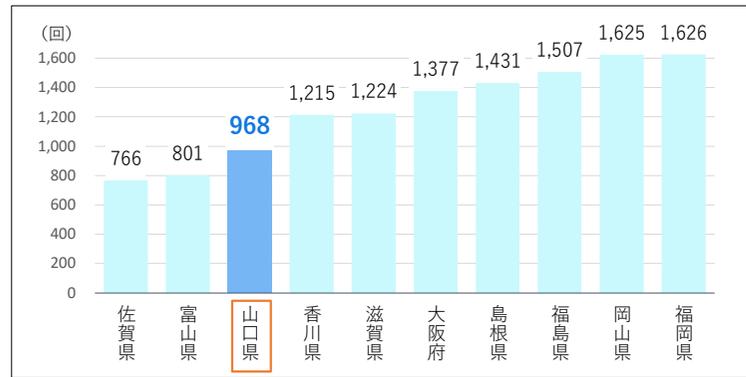


(資料) 山口県土木建築部港湾課「山口県のみなど」

災害リスクの小ささ（BCPでの優位性）

- 下関地方気象台で震度観測記録が残る1919年以降の地震回数は、全国3位の少なさ
- 地震調査研究推進本部の資料（2020年3月公表）によると、今後30年以内に山口市で震度6弱以上の揺れが起きる確率は6.3%と全国最低
- 南海トラフの巨大地震による津波の発生リスクは低い（内閣府HP「南海トラフの巨大地震による津波高・震度分布等」）

地震回数（1919年～2022年3月末）



(資料) 山口県産業労働部企業立地推進課「山口県企業立地ガイド」
山口県総合企画部政策企画課「やまぐち未来維新プラン」

第3章 山口県経済の課題：（1）SWOT分析 ①山口県の強み

高等専門学校3校は全国2位

- 全国51校55キャンパスの国立高等専門学校のうち、最も高専が多いのが北海道の4校、次いで、山口県、福岡県が各3校
- その他にも理工系教育機関が立地しており、豊富な産業人財を有する

山口県内の理工系教育機関

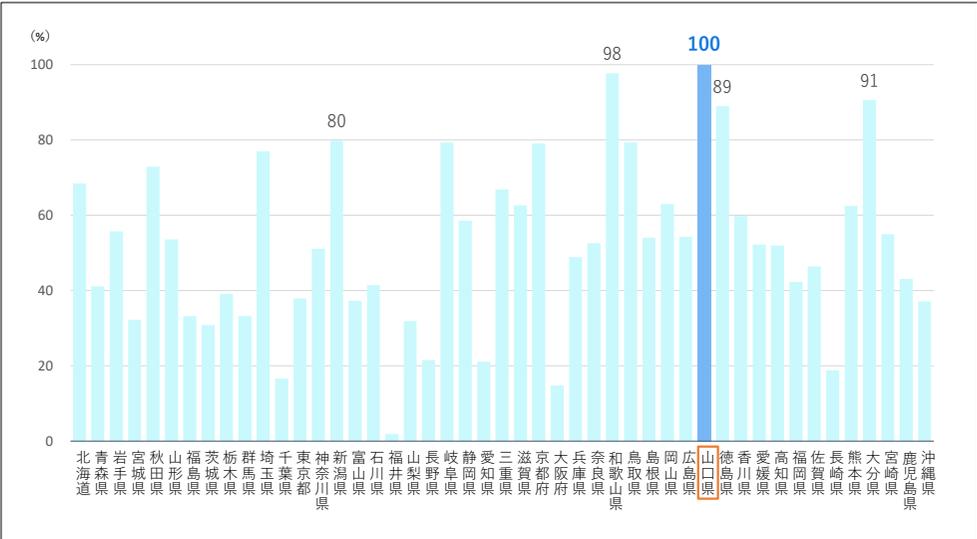


(資料) 独立行政法人国立高等専門学校機構「全国の国立高専」
山口県総合企画部政策企画課「やまぐち未来維新プラン」(2022年12月)

地域と学校の連携度（コミュニティ・スクール）

- 2020年4月、全国に先駆けて県内全ての公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等がコミュニティ・スクールとなり、導入率100%は全国一位・唯一（2023年現在）

全国のコミュニティ・スクールの導入率



(資料) 文部科学省「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」(2023年11月)

第3章 山口県経済の課題：（1）SWOT分析 ②山口県の弱み

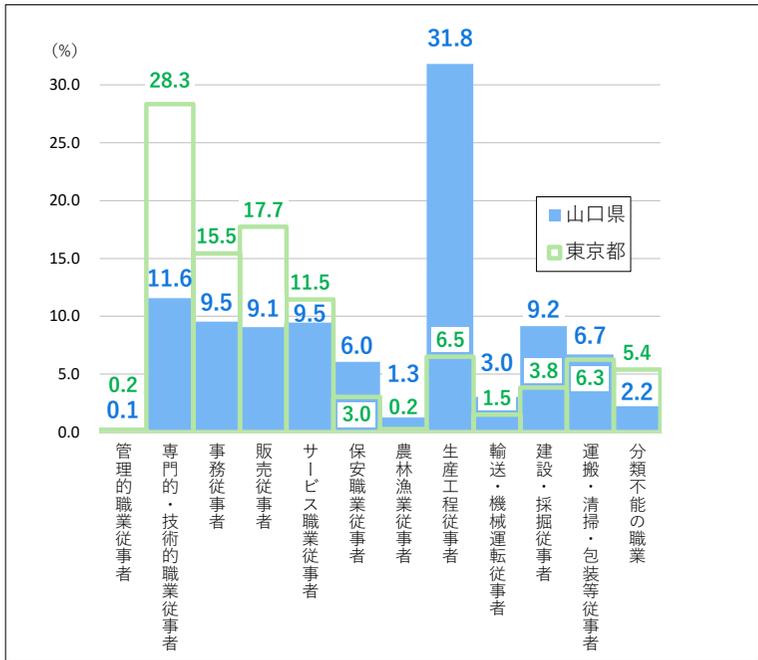
ホワイトカラー雇用の受け皿不足

- 生産工程従事者（工場のいわゆるブルーカラー）の職場が圧倒的に多く、事務従事者等のホワイトカラーの職場が少ない

情報通信業や学術研究、専門・技術サービス業の従事者が少ない人財ポートフォリオ

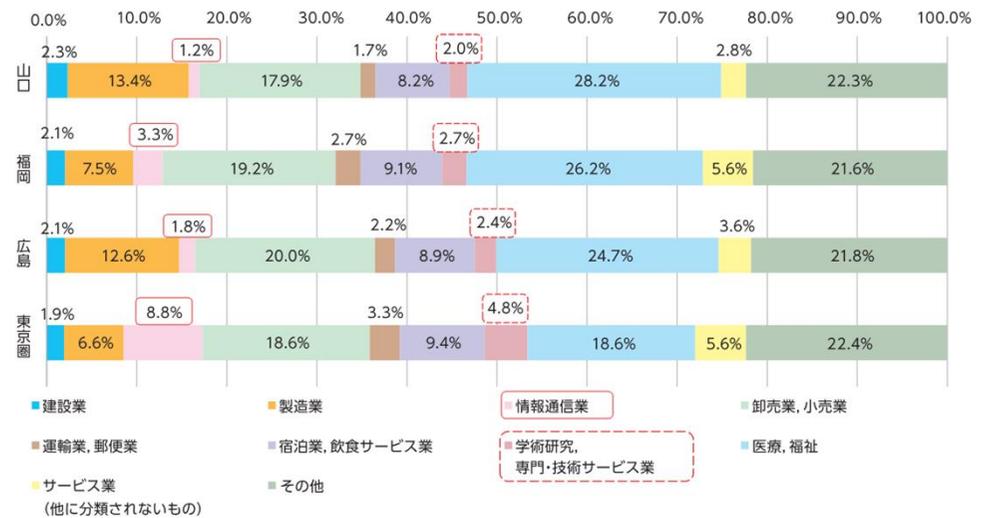
- 大卒女性の就業が多い「情報通信業」や「学術研究、専門・技術サービス業」は、東京圏に集中している

15～29歳男性就業者の職業構成比（2020年）



(資料) 総務省「国勢調査」

20代女性の就業者数の割合（産業大分類別）



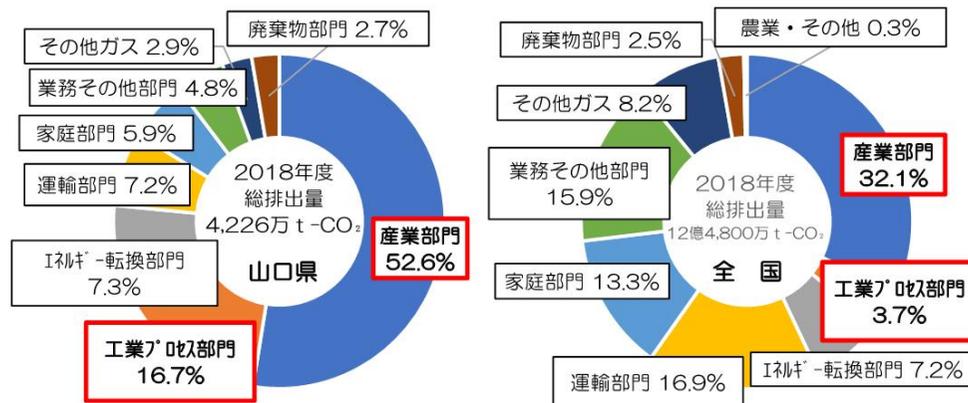
(資料) 山口県総合企画部政策企画課「やまぐち未来維新プラン」(2022年12月)

第3章 山口県経済の課題：（1）SWOT分析 ②山口県の弱み

産業部門及び工業プロセス部門の温室効果ガス排出割合が全国平均の約2倍

- 産業部門及び工業プロセス部門の温室効果ガス排出割合は、県全体の排出量の69.3%と全国の35.8%と比べ約2倍と高い

温室効果ガスの部門別排出構成

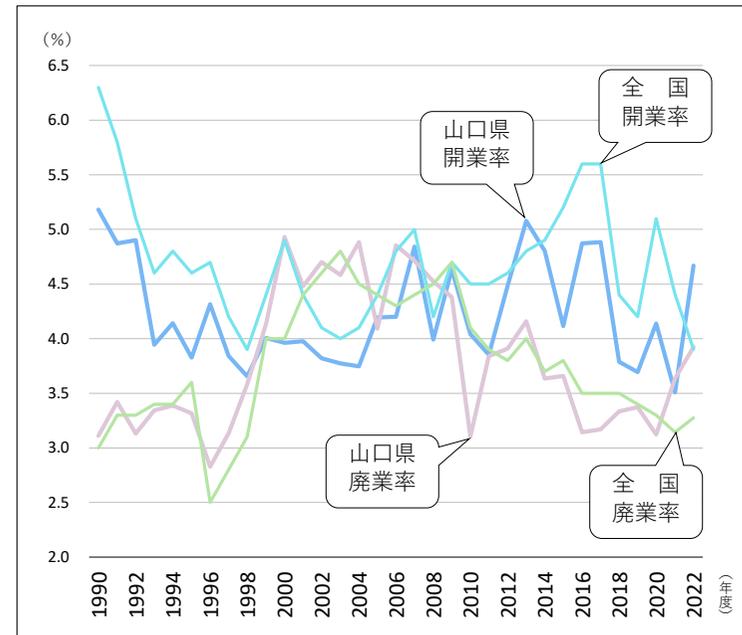


(資料) 山口県産業労働部産業脱炭素化推進室「やまぐち産業脱炭素化戦略」(2023年3月)

開業率の低さ、廃業率の高さにみられる停滞感

- 山口県の開業率は2014年度以降、2021年度まで全国を下回る水準で推移し、廃業率も足元で大幅に全国を上回る水準

開業率・廃業率の推移



(資料) 厚生労働省「雇用保険事業年報」

クロスSWOT分析

- 「強み×機会」「強み×脅威」「弱み×機会」「弱み×脅威」の分析によって、山口県が今後目指すべき戦略をいくつか示している

		内部環境	
		強み (S)	弱み (W)
外部環境	機会 (O)	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学等の基礎素材型製造業が新規開発等を強化し、アジア市場への輸出を拡大する (S①×O②) ● 医薬品・医療機器関連企業の更なる集積を図り、国内外の医療市場の拡大に結びつけ、県内産業の成長を加速させる (S②×O④) ● 美しい自然環境と多彩で美味しい食材等を活かし、拡大するインバウンド需要や地元志向の強まるミレニアル世代・Z世代を取り込む (S③×O③、⑥) ● 道路や港湾といった交通インフラの充実を活かし、近隣の福岡や広島との物流や人財交流を活発化させる (S⑤×O⑤) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者の地元定着を促進し、流出を防ぐため、地域の職場環境を改善し、働きやすい条件やキャリアパスを整備し、地域の魅力を積極的に発信する (W①、⑧×O⑥、⑦) ● リスキリングやリカレントの強化、若者が希望する職種や働き方を反映した雇用機会の創出によって、ホワイトカラー人財等の少なさを補う (W③×O⑦) ● 近接する大都市との経済活動や人財の活発な交流を活かし、大規模商業施設やアミューズメント施設の少なさをカバーする (W⑥×O⑤) ● インバウンド獲得に向けたマーケティング戦略を見直し、地元の観光資源を効果的にPRする (W⑧×O③)
	脅威 (T)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基幹産業である製造業の強みを活かし、脱炭素への対応を強化する (S①×T②) ● 高専等の理工系教育機関の集積を活かしたリスキリング、リカレントの強化によって、労働力不足や技術革新の進展に対応する (S⑦×T①、③) ● 地域と学校の連携をさらに強化し、地域を多面的に学ぶことのできる機会を提供することで、若者の県内定着を促進する (S⑧×T①) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素への対応が遅れると、大きなペナルティを受けるリスクがあり、地域が一体となって技術革新等による脱炭素対応を強化する必要がある (W②×T②) ● 山口県の観光資源等を活かした積極的なPRを展開し、魅力的なライフスタイルの提供や住環境の整備を進め、関係人口・移住人口の増加につなげる (W⑤、⑧×T①) ● 女性や若者を対象とした起業支援を充実させ、多様性を重視した企業文化の形成を促進する (W③、④×T⑥)

* 丸数字は、104ページの「強み」「弱み」「機会」「脅威」の記載に対応

第3章 山口県経済の課題：（2）総括

第2章のPEST分析結果に、SWOT分析に基づく山口県の内部要素（強み、弱み）と外部要素（機会、脅威）を組み合わせるとともに、クロスSWOT分析、10年後・20年後の人口・潜在GDP予測も踏まえ、以下の5つの解決すべき課題を抽出した

1 人口減少・少子高齢化に打ち克つ消費力や活力の創出

- ・ 市場規模の縮小、中心市街地の衰退、過疎地の廃墟地域化の諸問題の解決
- ・ 若者の県外流出抑制や高齢者の活躍促進による変革意欲の維持・向上

2 産業構造の変化に適合できる人財ポートフォリオの構築

- ・ 若者の県外流出等による雇用難や起業家の減少への対応
- ・ リスキリング、リカレントに対する従業員の意識付けとスキルの実装
- ・ 雇用流動化と個別企業に必要な人財とのバランス確保

3 カーボンニュートラルへの対応

- ・ 主要コンビナート企業・関連事業者のカーボンニュートラル対応及び行政・地域等の連携
- ・ 脱炭素化に伴うコスト負担増加に勝る企業価値向上

4 事業者の経営判断力・行動力

- ・ 新技術の活用、競合との差別化、働き手の意識変化への適応等の経営課題に対し、自社の体力・経営資源に応じて、経営者が取捨選択と優先順位付けをし、結果を出す判断力・行動力

5 山口県民の自己認識力と広報力の醸成

- ・ 山口県経済の発展に寄与する山口県の企業、個人、行政等の自己の強みに対する認識力と活用・実践
- ・ 上記の強みが国内外から好意的に評価され、交流人口や観光収入・山口県産品（農水産品・工業製品他を含む）の販売増加につなげる広報活動